
伊右衛門の襲撃

ぬじやわきし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

伊右衛門の襲撃

【Z-ONE】

Z9364M

【作者名】

ぬじやわきし

【あらすじ】

伊右衛門が襲ってくるだけの話です。

伊右衛門が人を襲つているところ「ウワサ」を聞いた。何のことかと訊ねたら、あのお茶の伊右衛門らしい。意味が分からぬので私は目撃者に聞いてみた。

「どういふことですか？」

「どういふことも、なにも、お茶の伊右衛門が襲つてくるんですよおおお。」

「は？」

「3mくらいのあんなのが人を襲つてるんです！助けてください！」

「3mの伊右衛門が人を襲つ？何かの間違いじゃないですか？」

「いや本当です！」

「伊右衛門ってこの伊右衛門だよね？」

私は伊右衛門の飲みかけペットボトルを取り出して言った。

「そうです！」

「どうしたら出てくるんだい？」

「分かりません！」

「いりしたらかい？」

私はペットボトルを道路に放り投げた。目撃者が叫んだ。

「ああー！」

ペットボトルが地面に立つたと同時に、突然ピアノで「III

ファラシ デー」と謎の音楽が聞こえた。

「伊右衛門のテーマだ！」

「やつが出てくるー！」

「逃げるーー！」

久石譲のBGMと共に、道路から巨大な伊右衛門が沸いてきた。私はしばらく立ち止まり、やがて逃げ出した。姿を全て現した伊右衛門は私を無言で滑るように追いかけた。途中、ある人が伊右衛門に衝突した。その人は伊右衛門に吸い込まれて消えてしまった。それを見て私はぎあああああと悲鳴を上げながら逃げた。

そして物陰のゴミ捨て場に隠れた。悲鳴は相変わらず聞こえる。私はがたがた震えた。

しばらくして音楽が止み、悲鳴も無くなつた。伊右衛門はあきらめたのだろう。ふつとため息をついた。ゴミ捨て場から出て、そばの自販機に向かつた。

その時。

・・・・＝ フアラシ ドーーシ ドー＝ ノードーファー

背後から聞こえてきたのでぞつとして私はゆっくり振り返つた。伊右衛門が後ろから沸いてきたのだ。わっと逃げたが、ときすでに遅く、私は伊右衛門に食べられた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9364m/>

伊右衛門の襲撃

2010年10月13日04時24分発行